

第 41 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日時：2021 年 1 月 18 日(水) 10:00～11:00

場所：オンライン開催

1. 次期廃炉研究開発計画等について

資源エネルギー庁及び機構から、次期廃炉研究開発計画等について、以下のとおり説明があった。

○ONDF と東京電力は、燃料デブリの取り出し規模の更なる拡大に向けて必要な研究開発課題を抽出し、その実施を適切に管理するため、今後約 10 年間の研究開発の全体を俯瞰した『研究開発中長期計画』を今年度策定した。

○新たに策定した研究開発中長期計画及びこれまでの研究開発の実施結果から抽出された課題をもとに今年度の次期廃炉研究開発計画の開発テーマ 11 件を設定した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

○今回の計画については、今後約 10 年間の研究開発の全体を俯瞰した研究開発中長期計画を策定したうえで、新たに抽出した課題も含めて開発テーマを設定したということで、個別の研究開発からようやく長期の計画に基づいた研究開発が行われるようになったことを意味するので、大変評価できる。今後この計画の進捗状況について定期的に報告いただきたい。

○遠隔装置の保守技術の開発について、いずれは地元企業が遠隔装置の除染や保守作業を行っていくべきと考えるので、この開発の段階から地元企業が関与するような枠組みで進めるべく、このテーマに取り組んでいただきたい。

○廃止措置を統合管理するための支援技術の開発の中で、デジタルツインの開発を検討していくという話があったが、デジタルツインを開発すること自体が目的にならないように、現場の取組みの設計評価を効果的かつ効率的に進める支援システムの実現を目指していただきたい。

○地元企業の参画について、少しでも地元企業が参画しやすくなるように、リスクの少ない重電メーカーと地元企業、電力の資金が入っている会社と地元企業の組合せのような、いままでにない仕組みも考えていただきたい。

2. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、汚染水対策、使用済燃料プールからの燃料取り出し及び燃料デブリ取り出し準備に向けた状況等の説明があった。

以 上